

管理、お手入れについて

株式会社 風知蒼

目次

1.商材について.....	1
1-1 ジョリバット仕上げについて	
1-2 コンクリート	
1-3 カラーコンクリート	
1-4 化粧ブロック	
1-5 照明器具	
.....	2
1-6 レンガ	
1-7 ストーン	
1-8 ウッド	
1-9 タイル	
1-10 白華現象について	
.....	3
1-11 ステンレス製品	
1-12 アルミ製品	
1-13 樹脂製品（プラスチック）	
1-14 アクリル樹脂・ポリカーボネート板・波板	
1-15 水道	
1-16 掃除用薬品	
2.樹木枯補償について.....	4
2-1 枯補償とは	
2-2 樹木管理作業とは	
2-3 枯補償の対象について	
2-4 枯補償の対象外について	
2-5 枯補償の期間	
2-6 その他の注意事項	

3.植栽管理.....	5
3-1 剪定	
.....	6
3-2 除草	
3-3 灌水	
3-4 肥料	
.....	7
3-5 病害 病害写真	
.....	8
表) 3-6 主な害虫被害樹と適応薬剤	
.....	9
表) 3-7 樹木年間管理表	
4.芝生管理.....	10
4-1 芝生種類	
.....	11
4-2 病害・害虫	
4-3 除草	
4-4 草刈り	
4-5 エアレーション	
.....	12
4-6 施肥	
4-7 目土いれ	
4-8 灌水	
表) 4-9 芝年間管理表	
5.草花管理.....	13

1.商材について

1-1 ジョリパット仕上げについて

ジョリパットは色落ちの少ない顔料で、自由自在なパターンと豊富な色彩で壁面を生き活きとした表情で彩ります。防藻・防カビが入ったものを使用しておりますが、照明器具や表札・ポストなどの突起部分などから雨だれが発生することが考えられます。キッチンハイターなどで早めに擦るときれいに保てます。施工後に温度・湿度・紫外線・大気汚染などで経年変化が生じますが、変化の程度・耐久性は使用環境によって異なります。標準耐久年数は11~12年とされています。

1-2 コンクリート

コンクリートを打設する際、1mm以下のクラック(ひび)が入る場合がございますが、これはコンクリートの特性によるもので、構造上強度的にも問題はございません。使用環境によっては多少の伸縮・ヘアクラック(0.3mm以下のクラック)及び角の欠けが発生することもありますのでご了承ください。

1-3 カラーコンクリート

カラーコンクリートは表面が非常に硬く緻密に仕上がるため、摩耗も少なく、強度に優れた床材です。コンクリート打設時にカラーコンクリートを散布・施工するので剥離はしません。無毒・無臭で不燃材料のため、コンクリートと同程度の耐熱性も備えています。表面仕上げ材がコンクリートを保護します。油や水の染み込みはコンクリートの半分以下ですが、油の染み跡は残ります。施工後に温度・湿度・紫外線・大気汚染などで経年変化が生じますが、変化の程度・耐久性は使用環境によって異なります。

1-4 化粧ブロック

化粧ブロックは外壁の意匠性を高めるのに適したコンクリート製品です。施工後に経年変化が生じますが、変化の程度・耐久性は使用環境によって異なります。同じ品番の商品でも、ロット・製造時期によって多少の色ぶれが生じます。

1-5 照明器具

使用環境や条件に適した照明器具を提案しておりますが、必ず製品の説明書をご覧になり、取り扱いには十分注意してください。点灯中及び消灯直後は、ランプ及び器具が高温となる商品もございますので手を触れないでください。照明器具には寿命があります。設置して8~10年経つと、外観に異常が無くても内部劣化が進行します。定期的に保守・点検を行い、必要であれば交換してください。感電の原因となりますので、ランプ交換及びメンテナンスの際は必ず電源を切ってください。

1-6 レンガ

レンガは焼き物の素朴な風合いを楽しむため、同色であっても形、表情、色に幅を持たせてあります。商品の特徴としてシワ・ざらつき・角落ちがございますのでご了承ください。施工後に経年変化が生じますが、変化の程度・耐久性は使用環境によって異なります。また吸収率が高いため特に冬場には白華現象が発生します。

1-7 ストーン

天然石のため 1 枚ごとに石肌の凹凸や色調、模様が違います。加工時は天然の石目に沿って手作業で割り剥がすため大きさ・厚みにばらつきがございます。石材の吸水性により白華現象や汚れの付着を引き起こす可能性があります。施工後に経年変化が生じますが変化の程度・耐久性は使用環境によって異なります。又、石材の特性上、剥離、欠けが発生する場合があります。

1-8 ウッド

木材は気温や含水率の減少による、やせ・ひび・そり・ささくれ、及び紫外線による色あせが生じます。これらは自然現象で、デッキなどの構造物の強度には問題ございません。保護塗料塗布済みのウッドデッキも、紫外線や雨風に晒されるうちに保護効果が自然に落ちてしまいますので、適宜オイルステイン材での塗り替えをお奨めします。施工直後は木材成分のポリフェノールが流れ出るため、壁面などを汚すことがございますが、沈着する前にキッチンハイター等で落とすときれいに保てます。施工後に経年変化が生じますが、変化の程度・耐久性は木材の種類や使用環境によって異なります。

1-9 タイル

タイルは耐候性に富み、意匠的にも大変優れた素材です。屋外装壁や装床などの用途区分に合わせて、剥離防止・滑り防止などの機能を強化しています。ただし、屋外床のタイルはスロープなどの勾配や施工場所により、滑りやすさが著しく変化しますのでご注意ください。施工後に経年変化が生じますが、変化の程度・耐久性は使用環境によって異なります。又、基本的に焼き物であるため軽微な欠け、ヘアクラック等（3mm以下のひび）が発生する場合があります。同じ品番のタイルでもロット・製造時期により多少の色ぶれが生じます。

1-10 白華現象について

素材に含有されるカルシウム分が水分により溶け出し、モルタルやコンクリート、レンガなどの表面、タイルやブロックの目地に白い綿状の汚れや斑点などが生じる事を白華現象といいます。主成分がセメント系であるため、冬季に打設したコンクリートに発生する事も多くなります。白華は除去しなくて時間とともに、水溶性のカルシウムとなり、雨に流されて消えます。気象や環境条件によっても異なりますが、自然に白華が消えるまでに 2 年以上かかることが多く見受けられます。白華はアルカリなので、酸で洗うことにより除去できます。除去をする際、強い酸で洗うとコンクリート自体が損傷を受けるのでご注意ください。酸がコンクリートなどの中に浸透するのを防ぐため、先に表面を水洗いし、弱酸性の水溶液で軽くブラッシングした後、多量の水で再び洗い流してください。

1-11 ステンレス製品

ステンレスは耐食性に優れた金属ですが、絶対に錆びない素材ではありません。使用条件や使用環境にもよりますが、海岸地帯や工業地帯などの環境が厳しい場所への設置は、特にさびや汚濁の恐れがあります。中性洗剤を薄めた液や水で汚れを落とし、錆が出ている場合は、目の細かいやすりで軽く擦るとよいでしょう。洗剤が残らないように洗い流した後に乾拭きをしてください。年 3~4 回程度の清掃で十分美観は維持できますが、汚れのひどい海岸地域や工業地帯などでは、状況に応じて回数を増やしてください。

1-12 アルミ製品

アルミはスチールに比べて錆にも強く、維持費のかからない素材です。ただし、表面に付着した汚れを長期間そのままにしておくと、変色など腐食の原因となります。素地によっては紫外線劣化による変形等が発生します。中性洗剤を薄めた液や水で汚れを落とした後、洗剤が残らないように洗い流してから、乾拭きをしてください。年 1~2 回程度の水洗いで腐食は防げますが、汚れのひどい海岸地域や工業地帯などでは、状況に応じて回数を増やしてください。

1-13 樹脂製品(プラスチック)

樹脂はスチールなどの金属のように錆びる心配がなく、管理の手間が少ない素材です。ただし、表面に付着した汚れを長期間そのままにしておくと、変色など腐食の原因となります。中性洗剤を薄めた液や水で汚れを落とした後、洗剤が残らないように洗い流してから、乾拭きをしてください。

1-14 アクリル樹脂・ポリカーボネート板・波板

お手入れの際に洗剤を使用する場合は十分に洗い流してください。傷・破損・変形の恐れがありますので、シンナー・ベンジン・ガラスクリーナーなどの溶剤、研磨剤、熱湯や乾いた布を使用しないでください。鳥の糞などを取り除く際にも、パネルに傷がつかないようにご注意ください。古くなったパネルは強風・衝撃で破損しやすくなりますので、定期的に保守・点検を行い、必要であれば交換してください。

1-15 水道

気温が著しく下がると、水道管が破裂する恐れがあります。冬季の対策として、使用後は元栓を閉め、水道管の内部にある水を抜くことをお奨めいたします。

1-16 掃除用薬品

石やタイルは経年変化も素材の味として楽しんで頂きたいため、年末の大掃除の際に水洗い程度で十分かと思えます。基本的にはデッキブラシと水洗いで十分ですが、ひどい汚れが付いた場合は洗剤や薬品などを使うと効果的です。日当たりの悪いところでカビが発生した時など限定的な使用をお奨めします。洗剤や薬品を使用する場合は、周りの植栽に影響がありますので、水で洗い流しの際には十分希釈するように多量の水を撒いてください。

2.樹木枯補償について

2-1 枯補償とは

お客様へ引渡し後、水やり等の樹木管理作業を行っているにも関わらず、枯れてしまった樹木を無償で取替えるという補償です。

2-2 樹木管理作業とは

剪定、水やり、薬剤散布、施肥など定期的な樹木の管理作業です。
※別紙、年間管理スケジュールを参考にして下さい。

2-3 枯補償の対象について

弊社で取扱った、樹高 0.5M以上の高木、中木、低木が対象になります。

- (1)樹木管理をしているにも関わらず、樹木全体の3分の2以上が枯れた場合。
- (2)弊社スタッフが、生育不可能と判断した場合。

2-4 枯補償の対象外について

以下の症状が原因と判断された場合は、枯補償の対象外となります。

- (1)水やり不足の場合。
- (2)花や実がつかない場合。
- (3)害虫及び病気による枯れの場合。
- (4)動物による糞尿による場合。
- (5)台風や酷暑、落雷、天変地異、異常気象などが原因の場合。
- (6)室外機及びヒーター、車両の排気ガスが原因とされた場合。
- (7)湧水等による根腐れが原因とされた場合。
- (8)除草剤等の散布が原因とされた場合。

注意事項

- (1)下草及び花物(1・2年草等)は対象外とさせていただきます。
- (2)数本の枝枯れの場合。(剪定を行なう事で、生育可能と判断させていただきます)
- (3)葉落ちが多い場合。(環境が変わり、樹木がストレスを感じて起こる症状なので、生育可能と判断致します)
- (4)一時的な症状の場合。

2-5 枯補償の期間

お引渡し後、1年間が補償期間となります。

2-6 その他の注意事項

- (1)上記の枯補償は樹木植替え作業で、同等金額の返金補償ではありません。
- (2)樹木の生育に異変を感じたら、お早目にご連絡をお願い致します。
- (3)補償期間に何度も枯れる場合は、樹木変更等を協議させていただきます。

3. 樹木管理

3-1 剪定

剪定にはその樹種固有の美しい樹形を現す目的と発芽、発根を促し、樹冠を構成する枝梢のバランスをよく生育させ、樹体を強固にさせる目的があります。

剪定の時期は樹木により異なり、東京では一般に下記のような時期に行うのが適します。

針葉樹・・・真冬を避けた10月～11月頃と春先。

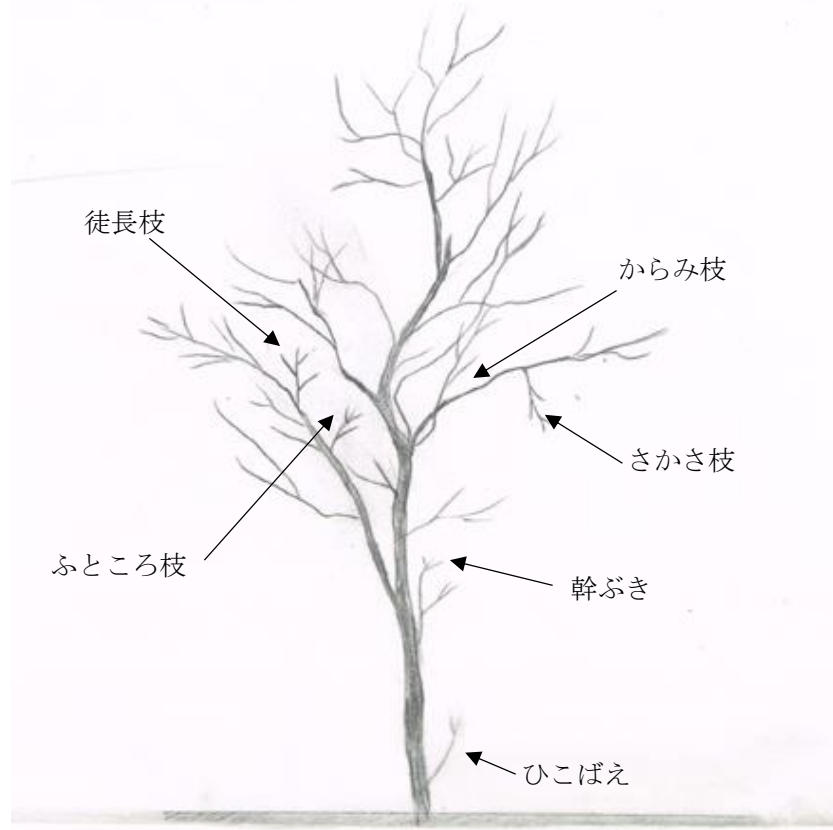
常緑樹・・・生長が休止する5月～6月頃と

土用芽や徒長枝が伸びて再び生長が休止する9月～10月頃。

落葉樹・・・新緑が出揃って葉が固まった7月～8月頃と落葉した11月～3月頃。

枝は下図のような枝を剪定します。

- ・ひこばえ 放置すると養分がとられ樹勢が衰弱するため早く剪定することをお奨めします。
- ・幹ぶき 放置すると樹勢を衰えさせるものなので、見つけしだい剪定をします。
- ・からみ枝 1本の枝が他の主枝に絡みついた形になるので、樹形を乱すため剪定します。
- ・徒長枝 組織的に軟弱で養分を取りすぎるため、全部または一部を剪定します。
- ・さかさ枝 樹形を乱すため剪定します。
- ・ふところ枝 日当たりや風通しを悪くし生長する見込みがないので剪定します。
切りすぎると新生枝の生長の妨げとなりますので生育が活発でないものには行わないほうが、よいでしょう。



3-2 除草

植栽樹木の密度が高く、草刈りが不適當な場所や、低木類を寄せ植えしてある場所などで雑草を根より取り除く作業です。

又、雑草による養分や水分の吸収を防止し、丈の高い雑草やつる性の雑草による日照の妨げを防ぐためにも行います。

3-3 灌水

灌水時期は樹木の成長期である3月～10月頃とし、特に干ばつの続く夏季、人工地盤（降雨があってもすぐ流れてしまうため）、容水量の少ない砂質土壌、移植直後などには適宜灌水を実施します。

夏場の植樹をした場合は朝、夕の灌水を実施します。

3-4 肥料

元肥は樹木の生長に必要な年間養分を休眠期（12月～2月頃）に施します。効果は3月～6月頃にあらわれてきます。

追肥は健全な生育維持のため、悪化の初期段階、悪化後の生育を健全な状態に戻し、開花、結実後の樹勢回復のために施すものです。追肥時期は根の活動の旺盛な6月～9月頃に行います。

植物の生長には16要素の成分があるといわれていますが、そのうち多量に必要なものが、窒素、リン酸、カリの3要素とカルシウムです。

下記の表にて役割等を示します。

要素	役割	欠乏の症状	過多の症状	対処法
窒素 (N)	原形質の主成分であるたんぱく質(生命)や葉緑素を作り、生育を促します。	葉緑素が生成されず、葉が黄変し、葉が枯れ生育がとまってしまいます。	葉が濃い緑色になり生育旺盛で開花が遅れ咲かないことがあります、病気になるやすくなります。	元肥、追肥時に窒素肥料を与えます。
リン酸 (P2O5)	植物体内の新陳代謝をよくし、細胞増加、(成熟期の種子、果実、花)の花芽を促します。	葉は暗い緑色となり、周辺に黒色の斑点が生じ、変色した葉は枯れ落ち、花の色や成熟が悪くなります。	特に目立った害は出にくいですが、鉄欠乏を起こしやすく、成熟が悪くなります。	元肥として有機物と一緒にリン酸肥料を与えます。
カリ (カリウム)	植物体内の新陳代謝をよくし、葉や茎根が丈夫になります。	気孔や水分代謝の調節を欠き、吸収作用が盛んになると軟弱体になります。アントシアニン色素が増え幼葉は青緑色になり葉脈の間に黄色い斑点ができます。	微量元素が植物に吸収されなくなりマンガン、ホウ素鉄などの欠乏症となり、土がアルカリ性になります。	元肥、追肥時にカリ肥料を与えます。

3-5 病害

病害は細菌、カビ、ウイルス、線形動物（線虫）が原因で引き起こされます。細菌は損傷口から侵入して病巣を広げ細胞分裂を起こし繁殖します。主な病気は**斑点病、軟腐病、根がんしゅ病**があります。

カビは適度の湿度、温度で発芽し気孔などから表皮を分解して、樹体内へ入り菌糸を繁殖させ固体を増殖させます。主な病気は**さび病、うどんこ病、べと病、すす病、枝枯病、もち病**などがあります。

ウイルスはアブラムシなどの昆虫の媒体で、樹体内へ侵入し繁殖します。主な病気として**モザイク病**などがあります。

線虫は数ミリの小動物で、主に根から植物の体内へ侵入し、根にこぶを作り、根腐れを起こす**根こぶ線虫**、気孔や表皮等から植物の体内に侵入して、被害を起こす**葉枯線虫**があります。

病害写真

			
さび病	うどんこ病	べと病	すす病
			
枝枯病	斑点病	軟腐病	根がんしゅ病
			
根こぶ病			

表) 3-6 主な害虫被害樹と適応薬剤

害虫	主な樹種	主適応薬剤	希釈倍率	散布方法
・ハマキムシ	・ボックスウッド・シマトネリコ ・モチノキ・カナメモチ ・シャリンバイ・オリーブ	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・アメリカシロ ヒトリ	・プラタナス・アメリカフウ ・サクラ	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・ケムシ類 ・モンクロシヤ チホコ	・サクラ	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・ツゲノメイガ	・ボックスウッド	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・イラガ	・トウカエデ・ケヤキ ・プラタナス・アメリカフウ ・ナンキンハゼ・ヒメシヤラ	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・カイガラムシ	・サザンカ・モチノキ・ソヨゴ	乳剤系		噴ム機
・ミノムシ	・クスノキ・ヤマモモ ・アメリカフウ・プラタナス ・メタセコイヤ・トウカエデ	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・グンバイ	・ツツジ類・サツキ	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・アブラムシ	・ウメ・サクラ・トベラ・モミジ	乳剤系	1000～1500	噴ム機
・チャドクガ	・ツバキ類・サザンカ ・カンツバキ・ヒメシヤラ	乳剤系	1000～1500	噴ム機

※参考HP住友化学園芸 <https://www.sc-engei.co.jp/guide/detail/1402.html>

主な害虫









			
アメリカシロヒトリ	モンクロシヤチホコ	イラガ	グンバイ
			
カイガラムシ	チャドクガ	イモムシ	アブラムシ

表) 3-7 樹木年間管理表

管理作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
常緑樹剪定(針葉樹)	← 春先 →						← 真冬を避ける →					
常緑樹剪定(広葉樹)	← 新芽が伸び生長が 休止する頃 →						← 土用芽や徒長芽枝が伸びて再び生長が 休止する頃 →					
落葉樹剪定				← 新緑が出揃った頃 →			← 落葉した後 →					
刈り込み				← 開花直後に刈り込み →								
施肥				← 追肥 開花、結実後の樹勢回復のため →			← 元肥 年間養分を休眠期に施す →					
病虫害防止	← 薬剤散布 →						← 薬剤散布 →					
除草	← 根より取り除く作業 →											
灌水				← 夏場は朝、夕の灌水を実施 →								

4 芝生管理

4-1 芝生種類

芝生には大きく分け**暖地型**と**寒地型**があり、日本では主に暖地型が使われています。**暖地型芝生**には日本芝（**野芝、高麗芝、姫高麗芝**）と西洋芝（**バミューダグラス類**）があり、生育適温 20℃～35℃以上で 10℃以下になると生育が停止し黄金色で冬を越します。寒さ、風、乾燥で冬は休眠状態になりますが、春になれば新芽が芽吹き、芝丈は低く横に広がり、ほふく茎で広がります。

【暖地型】

・野芝の特徴（日本芝）

環境適応力が高く、やせ地にもよく耐えて生育します。耐寒性が強く、葉が草丈 10～20 c m、長いほふく茎により広がり成長します。踏付けにも強く地表面保護などの管理に適しています。

・高麗芝の特徴（日本芝）

耐塩性が高く、休眠性が浅く、耐寒性は少し劣るが、草丈 5～15 c m、ほふく茎の分枝が多く、冬季緑色保持性が高く、緻密な美しい芝生を作ります。

・姫高麗芝の特徴（日本芝）

高麗芝の中でも最も葉が細く、密生度が非常に高く刈り込み頻度が多いが、美しいターフを形成するため個人宅の庭やゴルフ場に利用されます。

・バミューダグラスの特徴（西洋芝）

関東以南の温暖地に最も多く利用され、生育適温が高く、生長は暖地型芝草では最も繁殖力が強い品種です。そのため生育が早く、刈り込み頻度が他の品種に比べ高く、管理が大切となります。

【寒地型】

寒地型芝生にはベントグラス、フェスク類、ライグラス類があり、株立ちで成長します。生育適温は 15℃～20℃で冬季は育成が止まり休眠します。秋の、気温の下がった頃より生育が早くなり、暖地型とは違い、**冬でも美しい緑色保持性が高く**、日照不足にも耐え、種子で簡単に増やすことができる品種です。冷地で使用されていて寒耐性に優れてはいますが暑さには弱く、管理面では日本芝より手がかかります。

4-2 病害・害虫

病害虫には**空気伝染性**と**土壌伝染性**があります。

〈空気伝染性〉

さび病・・・芝草葉上に淡黄色、鉄さびの色の小点が現れ、激発すると芝生一面が黄色味を帯びて見えます。

葉枯病・・・春から梅雨にかけて輪郭の不鮮明な大小さまざまな褐色の斑点が現れます。

〈土壌伝染性〉

春はげ症・・・萌芽期に発生し直径 10～50 c m の円形パッチが成形されます。

ブラウンパッチ・・・梅雨明けの高温期に入る頃から直径 20～60cm の暗褐色または茶褐色の円形パッチが成形されます。



さび病



春はげ症



ブラウンパッチ

4-3 除草

翌年の雑草の発芽を防止するために行います。梅雨時期後期に行うと雑草の根元が引き抜きやすいため集中的に行うことをお奨めします。

4-4 芝刈り

芝生を刈り込まず放置すると軟弱に育ち、病害虫等に対する抵抗が弱まり、枯れてしまう部分が出てきます。芝生の美観を維持し、雑草の侵入を抑止し、通風、採光を確保し、茎葉の密度を高め丈夫な芝生の形成を促すため、芝刈りを行います。**日本芝**、**パーミューダグラス類**は 4 月～10 月の生育期間に行います。特に旺盛期 7 月～8 月は月に 2 回以上刈り込みを行います。**西洋芝**は旺盛期 4 月～6 月及び 10 月～11 月に刈り込みを行います。

4-5 エアレーション

踏圧などで土壌が固くなり、通気性が悪く芝生の生育が衰えた土壌を改良する作業です。新芽の動き出す春期に年に 1 回程度、芝生地表面にフォークの様なもので穴をあけ、土壌の通気性をよくすることで発育を促進し病気の予防を図ります。ただし土壌の固結しやすい地帯では年に数回行うこともあります。

4-6 施肥

春から初夏の芽が出揃う頃に生長を促し健康な葉を育てるために窒素肥料の多い有機質肥料を施します。肥料が不足していれば追肥とし速攻性の化学肥料を施すことをお奨めします。

4-7 目土いれ

芝生の萌芽を促す役割と土のデコボコを修正する役割があり、葉を細くきめ細かい芝に生長させることができます。

4-8 灌水

日本芝、バーミューダグラス類は乾燥に対する抵抗力が強いので、通常的气象状態ではほとんど必要性はありませんが値付け直後の養生期、夏の干ばつ期には朝、夕の灌水を行うことをお奨めします。灌水を始める時期として、葉がしおれる前に葉が変色する状態から始めるのがよいでしょう。

表) 4-9 芝年間管理表

管理作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
生育状況	← 生育期 →							← 休眠 →					
除草	← 春～秋の雑草は小まめに除草や発芽抑制剤、除草剤の散布 →							← 冬の雑草を除草 →					
芝刈り	← 月に1回 →		← 月に2回 →		← 月に1回 →								
エアレーション	← 踏み固められた場所にエアレーションなどして、地盤をほぐす 締固によって異なるが一般に年に1回 →												
施肥	← 施肥、活力剤散布 →												
目土いれ	← 目土を入れましょう →										← 目土を入れましょう →		
灌水				← 乾いたらお水をたっぷり →									
芝張り	← 芝張り、張替補修 →					← 芝張り、張替補修 →							← 芝張り張替補修 →

5.草花管理

草花管理は花の美しさを人々に楽しんでもらうために、場面にあった草花の配植を行います。

シーズンごとの花の変化を見せるほか、園路沿いや樹木の根廻り等への草花の配植、樹木地内への野草類の導入、池、小川などへの水生植物や湿生植物の導入など、空間にあった場面が考えられます。管理内容としては草花材料の入手、地植え、施肥（元肥）、根付け、種まきを含み、灌水、施肥(追肥)、除草、病虫害防除、花摘みなどです。

発行者 株式会社 風知蒼

発行年月日 平成 30 年 5 月

〒240-0023

横浜市保土ヶ谷区岩井町 122-12-101

TEL 045-712-9606

URL <https://www.fuchiso.com/>